

2020年4月5日

あすか山訪問看護ステーションの皆様

統括所長 平原優美

### あすか山訪問看護ステーション・緊急事態宣言

全国、東京都の状況を概観し、あすか山訪問看護ステーションにおいて、以下を宣言します。

- 宣言1. あすか山訪問看護ステーションでは、一人も職員をコロナウイルス感染で死なせません。そして、一人も利用者に感染させません。
- 宣言2. あすか山訪問看護ステーションでは、絶対に尊厳を損なうような発言、雰囲気許さず、職員間の差別を発生させません。
- 宣言3. あすか山訪問看護ステーションは、訪問看護により生命やかけがえのない生活を送られている利用者を支え続けます。

これを実現するため、職員一丸となって、まずは1か月間（5月連休明けの7日まで）、勤務時間内だけでなくプライベート時間内の生活についても以下のことを指示させていただきます。

まず、朝礼はなくします。必要な情報共有はMCSで行います。

ステーション事務所は閉鎖の可能性を予想し、電話は留守電とします。各自ケアマネジャーや病院との必要な連絡は、職場携帯電話で実施し、情報は記録してください。（相手先にも各自の職場携帯電話番号をお知らせください）

新規依頼や入院・入所情報は、各神谷、サテライトMCSで共有し、訪問看護調整は、小堀さん、金子さん、平原、荒木、滝井、リーダーで行います。訪問リハ調整はリハチームMCSで同様に調整してください。すでに方針に示した医療崩壊を予防するため、病院から退院希望のすべての利用者の受け入れを行い、在宅移行を支援するというに変更はありませんので、引き続きよろしく願いいたします。

ケアマネジャー、相談支援員は訪問を中止し、調整業務は電話でお願いします。

所内の各部門会議、管理者会議、医療安全委員会、働き方委員会、教育委員会、記録委員会、学習担当係をはじめとした所内会議はZoomを活用して行います。

**宣言1. 「一人も職員をコロナウイルス感染で死なせません。そして、一人も利用者に感染させません。」**

- ① 毎日本体温を測定し、3.7. 5℃以上、呼吸器症状、あるいは発熱なくても倦怠感や通常と異なる味覚異常（味がなく臭いもない）がある場合はもちろんですが、その他通常と異なる倦怠感やのどの痛みなどのある場合も、管理者報告し、自宅待機します。その後、管理者と相談し、必要時、医療機関を受診します。

② 一層の健康自己管理を実施してください。免疫力を高めるために毎日、ビタミン C2000mg サプリ摂取をお願いします。また、筋肉酵素を活用するため 10 秒スクワット 10 回以上してください。(WHO)

③ 平日、休日ともにできる限り外出しないでください(交通機関を使わない)。必要な生活必需品買い物と、先延ばしできない受診以外はしないでください。

④ 訪問は、できれば、自宅から利用者宅に直行し支援後、直帰してください。ステーションの自転車を使用して構いません。運転できる人はレンタカー(各自に配布すみのタイムズ ビジネス カード使用：使用料金は法人が支払います)をお願いします。それ以外の方は、交通機関により出勤し、自転車で訪問すると思いますが、交通機関内ではマスク着用し手すりなどへの接触に注意してください。

労災の関係で、通勤方法の変更が必要になります。自転車・車・バイク通勤への変更は管理者に届けて下さい。(すべての職員の訪問方法を把握しますので、MCS で報告してください)

⑤ 段階的に、神谷は、掃除や洗濯の委託(就労支援、シルバーセンター等)を休止し、サテライトも事務職による洗濯業務を中止するため、状況によっては、ユニホーム等は各自で持ち帰り、洗濯をしていただくことがあります。良い意見があれば出してください。

⑥ ステーションで更衣する人は、更衣室や事務所での対面での会話は最小限にしてください。Zoom や各携帯電話でコミュニケーションをとってください。どうしても会話をする場合はマスク着用し、距離をとり、短時間で済ませてください。

新入職員の皆様は、十分な情報を得ることができないことに配慮し、プリセプターが毎日連絡を取り、1 週間ごとに管理者(平原、荒木、滝井、鷺津)と話せる時間をとります。

⑦ 利用者・家族の発熱情報は、これまでどおり MCS で共有し、感染を疑う利用者への訪問内容や方法は、管理者と担当者で判断します。その結果、訪問が必要と判断した場合は、ガウンを着用し、利用者・家族にマスク着用を厳守してもらい、短時間でケアを実施します。利用者の担当は、感染の疑いがなくなるまで限定した担当者で対応します。

## 宣言 2. 「絶対に職員間の差別や尊厳を損なうような発言、雰囲気が発生させません」

当事業所では当初から、明確に打ち立ててきた差別を絶対に許さない方針に変わりはありません。職業倫理に基づき使命を果たすべき医療、介護、福祉職は、人間本来の理性的な判断や思いやり、優しさを根底においた支援やケアでなくてはなりません。そのような私たちが、同僚や地域の仲間に対して差別意識を持つことはあってはならないことです。

① 自身の体調変化を自覚し、発熱もなく、感染が不明瞭であっても、他の職員のことや利用者のことを考え、勇気をもって報告し、休んでくれた職員に、MCS で感謝の気持ちを送りましょう。一言でよいので、思いやりの言葉を全員、送ってください。そして、訪問を引き受けてカバーした職員同士、互いにエールを送りあいましょう。このような状況だからこそ人間の理性と優しさの言葉を目にすることは、私たちの精神的健康にも重要です。ウイルスに勇敢に立ち向かうときには、この理性が重要な武器となります。

**宣言3.「あすか山訪問看護ステーションは、訪問看護により生命やかけがえのない生活を  
送られている利用者を支え続けます。」**

宣言1. 2を遂行できて初めて、訪問看護ステーションの正常な事業運営が保持でき、宣言3を達成することができます。

- ① 4月5日時点で、訪問看護、訪問リハの利用者の訪問はすべて通常どおり実施します。  
しかし、すでに「新型インフルエンザ対策あすか山訪問看護ステーション事業継続計画」で示した通り、感染等で職員の3割が出勤できない場合、あるいは、病院の状況から退院者が増え新規依頼増加がみられた場合は、先週作成した利用者リストをもとに訪問調整します。

以上、あすか山訪問看護ステーションにおける400人以上の利用者と35名の職員の命と生活を守るために、ここに宣言いたします。